小田原のまちが教室 バル教育で、 未来を支える学校づくり 新たな青年期発達教育を創造

学校法人新名学園

野浩理事長・学校長に、旭丘の教育について語ってもらった。 めざし、地域に根ざし国際交流にも活動の幅を広げている新名学園旭丘高校の水 人間的成長を支えている。 今年、創立115周年を迎えて、新しい私学の創造を の統一」「生活と教育の結合」として引き継がれ、現代の生徒一人ひとりの発達と を築いた新名学園。その建学の精神は「知と技と観(物の見方・考え方・処し方) 1902(明治3)年に新名百刀女史により創設、女子の実学教育のさきがけ

現代の青年の 生きる力」を育む 地域を育てる学力

語」「数量」の認識の力とし **地してこれを形成すること** 似たちは、学力の基礎を「言 いれていくものと考えます。 についてお聞かせください ていると、常々強調されて に捉えるとともに、人や地 この総体の力と結んで形成 つですが、その認識の能力 などと関連し、人間とし 教育・子ども観・学力観 ます。改めて、新名学園 力、労働能力や社会的能 社会との「交わり」を 身体能力や感応・表現 学力の中心は認識の能 CD) が実施した2015 を遂げています。

地(城内キャンパス、久野 |科と総合学科|・二つの校 そうした視点をふまえて

水野浩理事長

いてい楽しい」と答えた日 ましたが、「読解力」につ 学的応用力」「数学的応用 査(PISA)」の結果が発 年度の「国際学習到達度調 本の生徒の割合(49・9%) た、科学についてのアンケ ては順位を下げました。ま 力」の分野では順位をあげ 表されました。日本は「科 トで一学んでいる時はた OECD加盟国の平均 域交流へと幅を広げ新たな 昨年は姉妹校と小田原の地 めとする海外交流ですが、 に展開してきた中国をはじ

つなぐ」駅伝の心を伝えて

え、陸上部は「一本の襷を 本の武道の心を演武で伝 に始まり、礼に終わる」日

小田原のまちが教室」と一した。 明らかになった調査結果で ぶ意欲に課題があることが ルにあっても、応用力や学 62・8%を大きく下回りま

・学校長

安と同じく中国八大古都の

J人間力」を培う教育の創 課題に応える教育課程づく する青年期の学びと自立の 足元からのグローバル教 Act Locally"の視点をもつ

に経済協力開発機構(OE 育」と結んで、さらに発展 昨年12月6日に、世界の 習指導要領改定でアクティ りに取り組んできました る学力を培う学習主体づく 学習)を全教科で取り入れ って、文部科学省は次期学 ることを方針としています 15 で、一貫して子ども・生徒 ブ・ラーニング(能動的な こうした課題ともかかわ 「生きる力」の土台とな 本校も前述のような形

結んだ国際交流地域づくりと

ラブ顧問の教員と部員が現 ポーツ・文化にかかわるク までの訪中では、日本のス 行っていることです。これ

創立110周年を機

た。相撲部や剣道部は「礼 地で特設授業を行いまし

市第37中学(日本の高校) 学校に続いて、河南省安陽 西安外国語大学附属外国語 産の兵馬俑がある西安市の 提携を結んだ、世界文化遺 教育」は、3年前に姉妹校 して位置づけた「国際連携 進展をみせました。 10周年記念事業の一環と と姉妹校協約を結ぶところ 2012年の学園創立1 と中国を結ぶ伝統文化であ 交流や授業に対しての生徒 いと思います。 の感想もシェアしていきた 通した交流を行いました。 発祥の地である安陽で書を 上」を披露。書道部は文字 る歌舞伎の「外郎売りの きました。演劇部は小田原

げました。

禹王の碑を、西安の碑林と 酒匂川上流の文命堤の碑文 朝を創出し、治水神、とし ークなのは、中国最初の王 て崇められている夏王朝の 授業交流のなかでもユニ

である授業を通した交流を 「一つは、近代学校の使命 です。 昨年3月の訪中の際

> は、09年と12年の国際学力 ないかと述べました。 挙制度)の伝統を転換させ テスト (PISA) で中国 成果が反映しているのでは た2年来の「素質教育」 言葉に言い換えれば「発達 上海がトップになったこ 素質教育」は私たちの

禹王の業績について書かれ には、本校の副校長が西安 いました。碑林博物館には 間性について学ぶ授業を行 を発揮した禹王の存在と人 びとの労働と協働の意味 文の読み解きを通して、 碑林博物館に納められた碑 た『尚書』・大禹謨の碑文 い道徳性と技術力・指導力 と、国のリーダーとして高 学び、知識の伝達や教育交 果発表会や学術研究討論会 関心を示しました。今後、 や生徒参加・保護者参加に 登校生徒の発達保障(ベー 校の崔副校長は、本校の不 流のための学術資料の交換 催を重ね、生徒間の活きた 両校での生徒による学習成 触れて、感銘とともに深い シッククラス)の取り組み 日・来校した西安外国語学 教育」です。一昨年春に来 に、教育研究の交流を深め、 子どもの発達」研究を柱 教育文化学術展覧会の開

生徒たちは、驚きの声をあ 平天成」の言葉を発見した 号「平成」の出典となった「地 同交流の、今後のさらなる どと結んだ海外諸国との共 西湘日中友好協会な

教育研究所長(千葉大学名 教育研究所を介した教育・ 育制度と大学・大学生 範学院で「日本における教 国際漢字会議の際に安陽師 した講演を、15年10月には 中比較の観点から一」と題 安外国語大学で「日本の教 誉教授)が、4年11月に西 ることです。三輪定宣私学 学術・文化交流を進めてい 二つ目は、新名学園私学

水野理事長・学校長から)三輪研究所長、から)三輪研究所長、

旭丘高等学校 文化に関する選択講座の充 タリア・モンゴルの言語と 位置づけた中国・韓国・イ 交流と学びの視野を広げ シルクロード・欧州圏を軸 ランスの高校生を交えた生 ②国際連携教育の発展と結 としたより広い文化圏へと んで本校のカリキュラムに モンゴル・米・仏など漢 今春の西安訪問では、フ ③インターネットを利 共同体で、貧富の差もなく、 狩猟生活を営んできまし 50人程の少人数の集団・

たいと考えています」 づ教 < 育と り

交流の発展に寄与していき ・市民・行政レベルの国際

さらに総合学科進路探求

度の創設にも対応する宿泊 す。さらに今後、留学生制

明治後期の時代において

研修施設や専攻科のカリキ

パスに4月から生徒食堂を

現在、久野・荻窪キャン

開設する計画を進めていま

る多様化であると考えてい 生徒たちの発達要求に応え 様々なカリキュラム創設は

ます

育の取り組みを通して地域 引き続き本校の国際連携教 施などを図るとともに、⑥

が直面している問題に照ら 郎先生に初代所長にご就任 の研究課題と、研究成果に 頂き、子どもと学校、地域 ついてお聞かせください。 して5課題を見出しました。 ○「私学と無償教育・公 憲法学者の故星野安三 「私学教育研究所

もあり、その中に日本の元

などを進めていきます」

費私学創造」〇「子ども・ 原のまちの教育・文化の創 田原のまちづくりに係る ○「地球環境と地域環境の けた平和教育創造の研究」 障と核兵器のない世界に向 生徒の発達研究」〇「日本 育に関する課題です」 『学校と史跡の共生』『小田 問題についての研究」〇「小 国憲法の平和的生存権の保 カリキュラムが進化 アポーツ分野の ています」

分野でこれまでの積み重ね

昨年は、スポーツの

が花開いた年となりました。

創部6年目の相撲部は、

教育や学校づくりに持

主将の矢野雄一郎君が昨年

相撲金沢大会に出場し、8

5月に第100回記念全国

月には鳥取インターハイに

団体戦で初出場を果たしま

体が教育力を持っている』 所長は『無償教育はそれ自 700万年のほとんどが1 と話されています。人類史 「三輪定宣私学教育研究

よみがえり、2世紀半ば過 ようになってしまいました。 ぎに国際人権規約の中に人 中で無償教育の理念は再び ました。日本でも、201 銭や経済効率に左右される 共同性が育まれたのです。 類普遍的原理として確立し 教育の平等性は失われ、金 ところが1万年ほど前、 た。この過程で優しさや思 育は有償教育へと変質し、 幣経済が発達すると無償教 類社会に階級が発生し、貨 いやり、助け合い、連帯感 しかし、人類史の発展の ・地域の皆さんの力によっ 勝利を飾りました。この勝 タイプの、生徒の学びと進 のことですが、 ツクラス」が新設されると 学科に「大学進学・スポー 徒・保護者・教職員と全学 利は、ずっと野球部の活動 てもたらされたものです」 を応援し支えてきた全校生 また、創部から18年にし 「このクラスでは、二つの 野球部が夏の公式戦初 -2017年には総合

用した日常の授業交流、④

交換留学生制度の創設、⑤

姉妹校と連携した学習旅行

学(公費私学)」の創造を「新 りの指針となり、学園の将 盤といってもよい、子ども 2年秋に中等教育への無償 来の学校像として「公営私 ちの教育づくり・学校づく を「社会の宝」とする無償 教育の漸進的導入を定めた 総合計画」の中に位置づけ 教育の理念と運動は、私た 国際人権規約第1条の留保 2世紀以降の人類の羅針 出場などの成績をあげるこ スポーツ分野とその関連分 科に進学し、将来、健康・ クラブに所属し、全国大会 路実現を図ります。 ・スポーツ分野の学部・学 試等を活用して大学の健康 推薦で大学への進路を拓く とに挑戦その実績をもとに 通し、指定校推薦やAO入 両面で充実した高校生活を 「アスリート」タイプ。もう つは、学業とスポーツの つは、旭丘高校の重点 と身体を一体にとらえ、健 を通し、他者や地域社会と 康・安全や運動についての 力を高めるのではなく、心生徒たちが、ただ運動能 理解と運動 いにも答えて

撤回がなされています。

ストレッチができる理論を 中心とする教場と、座学や 中心とした教場を一体とし ング器具を設置した実践を 総合棟を改修し、トレーニ むことを目的とします。 設する計画を進めています た施設を、新年度までに建 **久野・荻窪キャンパスの**

120周年へ向け たな歩みを

ます。

研究を進めてい

2

22年の創立1

学科の選択科目のカリキュ

現段階の高校課程の総合

大相撲九州場所。一番出世なる相撲部主将・矢野雄一郎君(左から2人目)

想をお聞かせください。 20年に向けた、今後の構

ラムにも、

このことと結ん

機に策定した『新総合計画』

学園創立110周年を

「地域立・市民立の私学

の類型を設置していきます。 「芸術(音楽・書道・絵画) 報・ビジネス」「保育と福祉」 で「スポーツ」「語学」「情

現在、国の政策として教

せていきます。

その一つは、子ども・生

業・産業社会などの要請に

ています。その多様化は企

ョンのもと、さらに前進さ の創造を図る」としたビジ

育の多様化が押し進められ

幕下になり、関取りを目指 とプロにいかせてくれた人 スです。「桜富士」の四股名 なったことも大きなニュー 々に恩返ししたい。 5年で をここまで育て、高校卒業 をもらった彼は私に、『自分 し大相撲界入りすることに したい』と目標を語りまし 11月に伊勢ケ濱部屋へ入門

実技 (実践) の多様な講点 ていきます。 の保障の視点から「科学的 いますが、 選択科目・ に分けて整理し、充実させ 進路に係る学習」等の内容 理論(身体科学)」「専門的 ・生徒の学びと発達、進路 なトレーニング実践」「基礎 には、スポ これを、子ども 座が開講されて 」「スポーツと 合学科の総合 ツ・健康分野 由選択科目群

めていくことです。

と久野・荻窪キャンパスの るための、城内キャンパス

建設的に変えていく能力を

化。社会を正しく批判し、 期の発達課題に応える多様 性が分化し、成長する青年 目指している多様化は、 化です。しかし、私たちが

身につけるためのものです。

これまで述べた進路探求の

施設・設備の総合整備を進

際連携・足元からのグロー

ル教育をさらに発展させ

んだ地域社会との連携や国

も結んで、この間大きく進

保障する教育課程づくりと 徒の青年期の学びと発達を

まま適応させるための多様 応えて、生徒を社会にその

りたいという生徒たちの願り、多様な進路の実現を図 ら自らの心身の基礎をつく 年間スポーツに親しみなが のコースをつくり、高校3 クラスにもスポーツ類型等 いきます。 く構想を持っています。 ツセンター) をつくってい たインテリジェントセンタ 際連携の情報施設を内包し ュラムに対応する施設、国 (文化センター・スポー 貫教育を展望して『新

の積極的な関わりをつくり だしていく資質や能力を育 の合理的な実践 と環境・健康・スポーツ」 光と情報ビジネス」「観光 えば「観光と言語・文化」「観 野で大きく括りながら、例 の課程をつくる方針を持っ 域の課題である「観光教育」 総合計画』に盛り込んだ、 に合わせた学習や資格取得 徒たちの関心や進路の希望 キュラム体系をつくり、生 といった類系を持ったカリ ています。「観光」という分 園」を設置する構想につい 上に専攻科、下に「子ども て具体化することとし、地 ては、専攻科設置を先行し

野への就職を願う生徒です

ができる道を開いていきた

旭丘高等学校 学校法人 新名学園 ●第2校地 小田原駅からスクールパス15分 〒250-0042 神奈川県小田原市萩葉1980 TEL:0465-21-0660(代) FAX:0465-21-0680 ●第1校地 小田原駅から徒歩5分 〒250-0014 神奈川県小田原市城内1番13号 TEL:0465-24-2227(代) FAX:0465-22-0216

2017年度生徒募集 募集定員533名 普通科270名(内、クリエイティブクラス60名)・総合学科263名 ☆普通科に一般普通科とクリエイティブクラスを設置。 ☆総合学科263名に「進路探求クラス」と「進学クラス」があり、学業進学〈ジェネラルコース〉と スポーツ進学〈スポーツコース・海外からの留学生制度あり)が設置されている。 ☆総合学科・普通科とも不登校生徒「ペーシッククラス」(計60名)あり。

1年7日(土)学校説明会

進める決意です

を育てていく学校づくりを 域社会の未来を支える青年 立・市民立の私学として地 神を現代に引き継ぎ、地域 をなした創立者の建学の精 女子の実学教育のさきがけ